

掛川周辺の地層観察：中部地区巡検会報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-02-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 弘幸 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024579

掛川周辺の地層観察 ～中部地区巡検会報告～

佐藤 弘 幸

1. はじめに

2014年8月16日土曜日、掛川市立大淵小学校教頭白井久雄会員の案内で中部支部巡検会が行われた。白井会員は、掛川周辺の露頭の記載を精力的におこない、その成果を静岡地学に発表されている。

当初、8月10日に実施予定で、参加者が多数見込まれていたが、台風11号の接近により延期となってしまう。16日はお盆休みで他の行事ともバッティングしたため、参加は3名と残念であったが、大変中身の濃い巡検であった。ここにその様子を少しでも再現できればと考え報告する。なお、各露頭の位置は各報告をご覧ください。

2. 観察地点

(1) 袋井市宇刈里山公園

10時半、掛川市役所駐車場に集合、観察地点に向かった。宇刈里山公園は袋井市によって整備された公園で、露頭が観察できるかたちで整備されている。静岡地学のGEO DATAにも記載されている(加藤, 2014)。なお、袋井市は大地の成り立ちが学べる公園を整備したことで昨年9月、地質学会表彰を受けている。

露頭表面は少し風化がおり、一部植生が覆い始めているものの、代表的な宇刈層の層相が観察できる。静岡大学の延原尊美先生の解説文も丁寧で、古環境を理解する手掛かりとなっている。

この露頭でハンモック状斜交層理を示す砂層から砂シルト互層が観察できる。柵の部分の砂層は基底部に貝化石密集層のラグをもち高エネルギーで流れ下った様子や、上部に向かってエネルギーが次第に減衰していく様子が観察できる。内側陸棚の堆積相と解釈されている。また、キサゴの進化やメタセコイアについても解説されており興味深い。

(2) 掛川市飛鳥

この露頭は、白井(2009)で記載がある露頭である。植生が覆いだしているものの、下部に大日層の貝化石密集層が見られた。この部分は石灰分が硬く固結し、ノジュールとなっていた。上位の宇刈層との境界は残念ながら観察できないが、上部は極細粒砂からシルトが重なり、より深い層相に変化



図1 宇刈里山公園にて地層の案内板をみる。

していることが観察できた。

(3) 掛川市小市

かつて農道の脇だったこの露頭も、住宅開発の結果農道の脇となっていて、露頭での採集は憚られる。植生におおわれつつあるものの、癒着したハンモック状斜交層理が観察できる。

(4) 掛川市杉谷砂泥互層

この露頭は来年度より小学校の教科書に掲載されるものだそうです。きれいな砂泥互層であり、白井（2013）に記載がある。砂層は浸食的な基底面をもち、下位の泥を偽礫として取り込んでいたり、貝化石が密集していたりする。その上位は平行葉理をもつ細粒砂層、カレントリップル葉理をもつ細粒砂層、砂質シルト層に漸移している。砂質シルト層は生物擾乱が激しい。シルト層は、いわゆるタービダイトの遠洋性泥岩とは趣を異にしているように見えた。

(5) 掛川市桶田

ここでは五百済火山灰層を観察した。この火山灰層は、層厚 10m 以上ある軽石と細粒火山灰の互層からなり、白井（2004）に記載がある。平行層理やカレントリップル葉理、フレーム構造や皿状構造など変形構造もあり飽きさせない。変形構造のひとつ漏斗状構造は、タービダイト砂層の急速な堆積による間隙水の脱水を示していると白井氏は考えているようだ。

3. おわりに

当日、静岡市は晴れていたが、西へ進むにつれ雲が広がり、時折雨が降る天候であったが、露頭では雨に降られることも炎暑に焼かれることもなかったのは良かったといえよう。掛川層群の多様な地層を観察できたことは収穫であった。最後に、丁寧な巡検案内書を用意し、案内いただいた白井会員に感謝する。



図2 小市の大日層。中央部分にレンズ状の貝化石密集層がみえる。



図3 杉谷の砂泥互層。



図4 掛川市桶田の五百済火山灰層。

引用文献

- 加藤和男 (2014) : 地学散歩 (89) 静岡県 GEODATA (10) W015 宇刈里山公園の地層露頭. 静岡地学, 109, iii.
- 白井久雄 (2004) : 掛川市桶田に見られる五百済火山灰層について. 静岡地学, 90, 13-20.
- 白井久雄 (2009) : 掛川市飛鳥に見られる大日層と宇刈層について. 静岡地学, 100, 61-65.
- 白井久雄 (2013) : 掛川市杉谷に見られる掛川層群宇刈層について, 静岡地学, 108, 1-6.